

V 基礎研究の振興及び人材育成の強化

基礎研究の振興及び人材育成の強化により、人類の新たな知の資産を創出するとともに、世界共通の課題を克服し、安全で豊かな国民生活を実現への基礎を構築する。また、知の資産を創出しつづけ、我が国の科学技術それ自体を文化として育み、これらを担う多様な人材を育成、確保する社会の実現を目指す。

- ・ 政策課題「世界トップレベルの基礎研究の強化」

我が国の高い科学技術水準の維持、発展するためには、国内外の研究者を惹きつけ、世界最先端の研究開発を推進することが重要である。そのためには、「世界トップレベル研究拠点プログラム」を引き続き推進するとともに、国際的に先鋭な領域に焦点を絞った拠点を形成し、結果として地域における世界トップレベルの基礎研究の推進と活性化も視野に入れ、支援するものである。

- ・ 政策課題「独創的で多様な基礎研究の強化」

科学研究費補助金は、政府全体の競争的資金の半分以上を占めており、基礎研究を振興するうえで重要な事業であり、より一層の効果的・効率的な活用を図る必要がある。そのため、基金化による成果、効果を検証しつつ必要な取組を進めるとともに、制度の改善の取組を一層充実するものである。

- ・ 政策課題「科学技術を担う人材の育成」

我が国の将来の科学技術を担う若手研究者は、自立して研究に専念できる立場や環境にない者が多い。そのため、自立して研究できる環境を与えることができ、将来のキャリアパスを見通すことができるように安定的なポストを用意するテニュアトラック制の普及・定着を推進し、優れた研究者を育成しようとするものである。

「基礎研究の振興及び人材育成の強化」対象施策一覧

政策課題	重点的取組	施策名	施策の概要	指摘事項	実施期間	H24概算要求額 (H23予算額)	府省名
世界トップレベルの基礎研究の強化	科学技術イノベーションに資する世界トップレベルの基礎研究ハブと国際的な連携ネットワークの形成	世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)	<p>(概要)</p> <p>本事業は、内外の研究人材が自然に蓄積されるような研究機関を作っていくことが必要であるという問題意識の下、世界的な著名研究者を拠点長として責任者に位置づけ、その下に高いレベルの研究者が結集する、優れた研究環境と高い研究水準を誇る世界トップレベルの研究拠点形成を目指す。</p> <p>既存の6拠点が事業期間において世界トップレベル拠点となるよう確実に引き続き推進していくことに加え、新たな戦略的展開として国際的に先鋭な領域に絞った拠点の形成を実施する。</p> <p>(達成目標)</p> <p>平成32年までに、国内に世界トップレベル研究拠点を10拠点程度形成することを目指す。</p> <p>また、新たな戦略的展開として先鋭な領域に焦点を絞った世界トップレベル研究拠点の形成を目指す。</p>	<p>アクションプランに掲げる政策課題の趣旨と合致しており、適切に推進すべきである。</p> <p>なお、国際的に先鋭な領域に絞った拠点の形成については、地域において世界トップレベルの基礎研究を推進するためには大変重要な方向性であり、積極的な取組を期待する。</p>	H19 -	10,053百万 (H23予算額 8,125百万)	文部科学省
独創的で多様な基礎研究の強化	競争的資金に関する執行の柔軟性の向上、審査等の制度改革、国民への情報発信の強化	科研費の基金化の拡大等	<p>(概要)</p> <p>科学研究費補助金の一層の効果的・効率的な活用を図るため、基金化対象種目の拡大を図る。また、より広い分野の視点からの審査の導入等の観点から、現在の審査に係る仕組みの改善を検討するなど、必要な制度改革を進めるとともに、社会への情報発信の強化等を図る。</p> <p>(達成目標)</p> <p>将来的にすべての研究種目の基金化を目指す。また、第4期基本計画期間中に、審査の仕組み等の制度改革及び国民への情報発信の強化を進める。</p>	<p>アクションプランに掲げる政策課題の趣旨と合致しており、適切に推進すべきである。</p> <p>ただし、国民の理解、信頼、支持を確かなものとするため、基金化等の効果を客観的に説明できるようにするとともに、制度の改善の取組を一層充実するべきである。</p>	H24 - H27	97,924百万 (H23予算額: 85,328百万)	文部科学省
科学技術を担う人材の育成	若手研究者のためのテニュアトラック制の普及、定着	テニュアトラック普及・定着事業	<p>(概要)</p> <p>若手研究者が自立して研究できる環境の整備を促進するため、テニュアトラック制(※)を実施する大学等に対して研究費等を支援することにより、テニュアトラック制の普及・定着を図る。</p> <p>※テニュアトラック制・・・公正で透明性の高い選抜により採用された若手研究者が、審査を経てより安定的な職を得る前に任期付の雇用形態で自立した研究者として経験を積むことができる仕組み</p> <p>(達成目標)</p> <p>テニュアトラック制の教員の割合を、全大学の自然科学系の若手新規採用教員総数の3割相当とすることを目指す。</p>	<p>アクションプランに掲げる政策課題の趣旨と合致しており、適切に推進すべきである。</p> <p>ただし、大学の各部署において、事業の趣旨が十分に理解され、テニュアトラック制を自らのシステムとして適切な形で実施する機運が醸成されるよう、積極的な広報等を十分にを行うことを期待する。</p>	H23 -	9,013百万 (H23予算額 8,147百万)	文部科学省